

平成28年度健康寿命延伸プロジェクト健康資源優秀団体

地域部門

賞	団体名	活動および取組内容
最優秀賞 【栄養】	びわこ腎臓病食研究会 (全県)	<p>腎臓病患者の透析導入が増える現状に、腎臓病を学んできたことでお役に立ちたいという思いから、4年前、有志管理栄養士5人（現在9人）で”びわこ腎臓病研究会”を立ち上げ、透析導入を遅らせるために、調理実習を主体とした腎臓病教室を毎月開催している。（H28年12月時点で計37回開催）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象者は患者さんとそのご家族、他。 ・参加者は当初は0人の時もありながら、工夫を凝らしながら継続し、現在では内容も充実し、リピーターも増え、参加数も30人前後になっている。 ・教室は10時半～15時、午前：調理実習、午後：栄養士の話、医師のミニ講座、運動指導士の運動指導、患者体験談、交流会、栄養相談等。 ・教室の成果は、患者さんは食事療法の意義を学び、理解、納得し、調理実習を通して実践、継続でき、検査数値も改善し、透析導入を遅らせることに繋がっている。 <p>また教室が、ご家族の絆を深め、患者さん同士の交流の場となり、不安が希望に変わり前向きになられ、教室全体が明るくなった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・このボランティア活動に常に不安を感じながら継続できたのは、スタッフの熱意と、応援して下さる医師、行政、メーカーの方々から支えていただいたからこそである。
最優秀賞 【運動】	湖南市ちよいスポクラブ (湖南市)	<p>誰もが気軽に楽しく参加でき、スポーツを通して夢が語れる多世代の交流を基本理念として活動している。クラブメンバーは自分にあったスポーツを自分のペースで楽しんで、運動不足の解消、身体・健康仲間づくりをしている。</p> <p>1) フリースポーツ：ビーチボール、卓球、バドミントン、グランドゴルフ、健康バンドなど、体育館で各々の好みのスポーツを行う。 毎回の参加者は40-60名。年2回は体力測定を実施。</p> <p>2) 放課後クラブ：三雲小・菩提小・三雲東小でそれぞれ年間20回。 バスケ・サッカー・ドッチボールなどスポーツを行う。キッズ会員は80名程度、1回の参加者は20名程度。</p> <p>3) サークル活動：ボウリング・グラウンドゴルフ・ゴルフ・健康バンド・ウォーキング（ランニング）</p> <p>4) スポーツボランティア活動：レクリエーション遊びの指導、救命救急講座（年1回）・市内公園清掃活動。</p> <p>5) イベント：ちよいスポ大会、グランドゴルフ大会、ボーリング大会、ゴルフコンパ</p> <p>取り組みの効果としては、開催日はいつでも自分の好きなスポーツが実施できるため、参加者は毎回40-60人であり、参加者の健康増進が図れるとともに、仲間もたくさんでき、そのことがまた運動継続にもつながっている。</p> <p>放課後クラブは、子どもからの運動習慣の定着につながっているだけでなく、多世代の交流の場ともなっている。地域の団体（まちづくり協議会、体育協会等）と事業を協働実施するなど活動が広がっている。</p>
最優秀賞 【喫煙対策】	ちっち&みっきーの おいしい料理屋さん (大津市)	<p>「経営理念の一文にあります、未来の子ども達が健康で幸せな生活が送れるよう挑戦します。」という箇所を形にしていることが、飲酒出来るが、全日完全禁煙ということです。オープン当初、周囲からは売上に対する不安から完全禁煙に対し否定的でした。しかし、滋賀という土地柄理念優先の運営に理解あるお客様が多く、問題なく運営させて頂いております。</p> <p>子どもを安心して連れてこられ、夫婦仲良くお酒が飲めるお店です。子どもの楽しい声とおじ様の楽しい声が混じり合う居酒屋です。外食は笑顔と幸福感を創造する場所です。私達は、地域に笑顔を増やすことを最重要活動と考え日夜取り組んでいます。滋賀県に貢献することも事業を行う重要事項と考え、大津市観光振興課(近江米カレー)、びわ湖観光協会(ちはやふる)、滋賀ロケーションオフィス等々への協力も積極的に行っております。</p>
最優秀賞 【介護予防・その他】	守山市速野学区 民生委員児童委員協議会 (守山市)	<p>平成25年学区社協で「一人暮らし高齢者等の生活実態」調査を計画、学区民児協が訪問調査を担当。その結果をもとに、平成26年、高齢者自身がいきがいのある自立した生活を送るために、百歳体操や脳トレ等の実践による「寝たきり予防」イコール「健康寿命延伸」と異世代とも交流可能な居場所づくりを目的に活動を開始。</p> <p><活動内容、効果></p> <p>◇平成27年 活動の名称を「いきがい 健康 交流サロン」とする。</p> <p>①学区内10自治会の「既存サロン」の内容・スタッフ等状況を確認 ②学区内の「先進的な自治会」と「モデル自治会」を選定 ③自治会へ出前する「使用物品・脳トレキッド」を手作り準備 ④「福祉協力員」に説明会実施。健康推進員、自治会福祉部門に協力依頼 ⑤学区民の集いで「子どもたち」と脳トレキッド作成・使用実践 ⑥「中間報告会・研修会」を学区福祉関係者に呼びかけ実施 ⑦自治会へ「百歳体操用おもり」「脳トレキッド」等貸出し ⑧年間活動報告を「学区民児協だより」に掲載、全戸配布 (効果) モデル自治会の他、学区社協のサロン等、計画以上の自治会に出前実施。その結果、百歳体操や脳トレの事業が3自治会から7自治会へ拡大実践。内4自治会で週2回実施、内3自治会で参加者の自主開催。</p> <p>(課題) ・参加者の中に孤立者をつくらない。・老若男女が一同に参加、楽しめる工夫 ・自治会間の内容格差の是正 ・担当者が楽しめるサロン運営 ・スタッフの発掘 ・自治会の大きさ、会場等その特徴に合わせた防災防火の配慮</p> <p>◇平成28年 ①10自治会全ての自主的な実践達成 ②「サロンの歴史や役割」過去から将来への研修会実施。 ③「活動紹介パネル」の作成と学区のつとめ等に展示。④居場所づくりとして自治会館解放やカフェサロンの実践（2自治会から6自治会へ） ⑤民児協として反省会を実施し、2年目の活動報告を「学区民児協だより」に掲載。全戸配布。 ⑥平成29年5月 民生委員・児童委員制度制定100周年記念事業（学区）において事業報告。</p>